

ハバナ大学経済学部

オマール・エベルレニ・ペレス・ビジャヌエバ教授 談話録

2016年12月12日(月) 13:00~14:00 於 日本プレスセンター9F

まとめ・文責 河内茂幸 キューバ友好円卓会議



ラウル・カストロ国家評議会議長の指揮下で進められている経済改革の主要メンバーであるオマール・エベルレニ・ペレス・ビジャヌエバ教授から改革の現状や展望などについてのお話を伺いましたので報告します。

二重の痛手

フィデル・カストロ前国家評議会議長の死去そしてラウル・カストロ国家評議会議長も2018年に引退することになっていることから、キューバは二重の痛手を受けています。

今回の訪日目的

今回は8月に来日し、アカデミックな面からいろいろ調査を行っています。日本メーカーは1970年代~1980年代から、日野自動車のバス、トヨタや小松のフォークリフトなどの製品をキューバに輸出しています。トヨタは近々ハバナにオフィスを開設する予定です。医療機器は、レントゲンやラボ用機器を当初から東欧ではなく日本から輸入しています。

社会主義国としてのキューバの政治・経済

現在推進中の経済改革について、経済改革モデル草案策定の当事者として話をします。

どの社会主義国であってもその政治はどこまでも社会のために機能することを大義としており、この大義はキューバでは社会主義による優れた教育・医療・福祉において体現されています。また、キューバはラテンアメリカ



においても国連においても重要な位置を占め、社会主義国としてのその政治は名誉に値します。しかし、経済に関しては、どの社会主義国についても言えることですが、(キューバについても)その社会主義経済が他の経済システムと競合したときに失敗してきたことを否定することはできません。

失敗の原因として、二つの誤謬が挙げられます。一つ目は「資本主義と市場経済の混同」、そして二つ目は「経済主体はすべて国有でなければならないという考え方」です。

キューバの経済改革モデルに基づく市場経済

キューバは経済改革モデルに基づいて部分的に市場経済を導入していますが、この市場経済は社会主義国であるベトナムのそれに近いものです。経済改革は、キューバ国民各個人が労働のなかで満足を感じることができ、労働によって生活のレベルも上がり幸せが感じられるような結果につながらなければ意味がありません。このような趣旨から、経済改革モデルでは労働に対する個人のインセンティブを重視し、しかるべき方向性と目標を定めています。「資本主義と市場経済の混同」という問題については、キューバ社会主義の獲得物である教育・医療・福祉は政府によって存続させ、経済改革のなかで一部に発生している所得格差の問題でも政府が貧者(低所得者層)対策として力を入れて取り組んでいることなどを見ても、キューバが導入している市場経済は資本主義による市場経済とは異なるものです。

国有と非国有それぞれの合理性

ラウル・カストロ国家評議会議長はキューバ経済を構造的に変革しなければならないと考えて、モデルプランの実施にあたってきました。このモデルプランに基づく社会主義経済によって資本主義の場合よりも利潤を上げることができると考えられていましたが、今までのところ功を奏していません。このような経緯から、そして労働に対する個人的インセンティブ重視の考え方から、エネルギーや電話などの基幹部門は国有、食料部門や小規模商売は非国有のほうがよいという結論が出されました。

キューバ若年層の海外流失問題(経済改革の文脈から)

日本と同様キューバでも高齢化が進む一方で、多くの若者がキューバ経済に希望を持たず、米国やヨーロッパに移住しようとする傾向が続いています。若者の海外流

失はキューバ社会にとって大きな損失となり、これを防ぐためにも経済改革を進めなければなりません。経済改革においてどこまでも重要なのは、しかるべき方向性と

目標そしてそれに沿ったプロセスに基礎を置いた経済改革モデルです。

世代別に見たキューバ国民の意識

キューバ国民の世代を意識別に分類すると、1) 70～80歳世代、2) 50歳～世代、3) 30歳以下の若者世代、の3つに分類できます。70～80歳世代は考え方や意識が固く変化を求めず、50歳～世代は“Cosa buena”（[良い・望ましい]こと）を知っている世代であり、30歳以下の若者世代は政治には関心がなく、刺青などで自分の好みを強調する世代です。

世界中に広がっているオタク、漫画、コスプレなどの日本の若者文化はキューバの若者世代にも知られています。



★キューバ関連情報★

キューバ大使館を弔問

カストロ元キューバ国家評議会議長の死去に伴い、駐日キューバ大使館（東京都港区東麻布）は2016年11月17日から12月4日まで、弔問を受け付けました。円卓会議としては、11月30日、共同代表の岩垂弘、事務局長の大賀達雄、事務局メンバーの杉本茂樹の3人が同大使館を訪れて記帳し、生花を贈りました。★本誌8ページ左下写真参照

駐日キューバ大使にペレイラ氏

駐日キューバ大使のマルコス・フェルミン・ロドリゲス氏が2016年9月末に離任、代わってカルロス・ミゲル・ペレイラ氏が10月22日に着任しました。ペレイラ新大使は11月14日、大使館2階に日本の友好団体代表らを招き、懇親会を催しました。円卓会議からは共同代表の岩垂と事務局長の大賀が出席しました。★本誌15ページ参照

今秋10月、円卓会議主催のキューバツアーを予定 ★関心のある方はメールか電話で円卓会議へお問い合わせください。

第12回 メーデー国際ブリガダー 2017年4月24日～5月8日 ★問合せは駐日キューバ大使館へお願いします。

キューバ諸国民友好協会（ICAP）と旅行代理店 Amistur Cuba S.A.は、第12回国際ブリガダーへの参加募集を開始いたします。今回はメーデー、そしてフィデル・カストロ最高司令官へのオマージュ、ならびに英雄的なゲリラ戦士エルネスト・チェ・ゲバラの没後50周年を記念して開催いたします。参加者はボランティアワークに加えて、歴史的・社会的場所への訪問、私たちの現状をテーマにした講演会、様々な政治・社会団体の代表者、キューバの労働者や労働組合員たちとの交流を行います。

interFM897「Vamos a CUBA」（インターネットラジオ）**2017年1月スタート！**

毎週日曜日 10:00～11:00 放送。キューバ出身のタレントSHEILAさん（写真左）がDJを務め「キューバをラジオから盛り上げていきます！」
出演したペレイラ大使（写真右）



写真：「Vamos a CUBA」の公式サイトより

2016年度収支報告

収	前年度繰越金	1,814,621	支	通信費	145,756
	会費	225,000		印刷費	42,072
	寄付	48,005		会場費	94,586
	物販収入	27,000		講師謝礼	175,000
	フォーラム参加費	84,000		雑費	64,315
	利息	132		物品仕入	12,000
				HP管理料	10,800
入			出	ボランティアセンター年会費	5,000
				振込手数料	324
	計	2,198,758		計	549,853
	※次年度繰越金	1,648,905			